

第4学年 学びのカテゴリー「動物」

第3学年では、花の生命の美しさや尊さを実感してきた。そんな児童だからこそ、飼育動物に対する生命の重みと育てることへの責任を強く感じるができるようになる。第4学年では、飼育活動を通して、「自分の願い」から「自他の願い」というように視野を広げることで見えてきた問題の解決を目指して、今まで以上に飼育動物と関わったり、その動物を支える人と出会い、対話をしたりする中で、動物の幸せを考え、自分はどうすべきかを探究していく。また、献身的に飼育動物と関わることを通して、命の有限性を感じさせ、自他の命を大切にすることを育む。

4年1組は、「動物たちに幸せになってほしい」という願いをもち、飼育動物が幸せにくらすために自分たちができることを探究してきた。継続して飼育動物と関わることや岐阜大学の先生や学生との交流を通して、動物の習性を知ったり、触れ合い方を学んだりすることで、さらに動物たちに愛着をもち、動物の気持ちに寄り添った関わり方や環境づくりなど、試行錯誤しながら実践を行ってきた。さらに、「動物たちの魅力を校内の仲間に伝えたい」という思いから、動物と人をつなぐプロジェクトの計画を進めている。

4年3組は、「全ての仲間が幸せになる飼育」という願いのもと、動物と全校の仲間のそれぞれが幸せになることを目指し、探究をしてきた。動物の生と死を間近で見たり、休日も継続的に動物と関わったりする中で、命の有限性を感じ、自他の命を大切にすることを育んできた。これらの経験を踏まえ、動物たちと全校の仲間のためにできることを模索し、動物たちと全校の仲間が触れ合うことのできるプロジェクトを企画した。動物たちや全校の仲間の様子を基に、より願いが実現できるようなプロジェクトに修正し、活動を進めている。

下川 舞子
中村 幸智
田中 雄也

4年1組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：動物（全105時間）

第4学年の目標	(1) 問題解決力に関わって		動物や人との関わりを通して出会った問いを基に、自分や仲間、動物たちが幸せに生きるために考えた自分にできることを、やり切ることができるようにする。															
	(2) 関係構築力に関わって		動物との関わりや動物に携わる人との交流を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり自分の考えを根拠を基に伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対して互いに納得できる考えや最適解を生み出し、活動することができるようにする。															
	(3) 貢献する人間性に関わって		飼育活動や様々な人との交流を通して、命の尊さやこれからの自分の生き方を見つめ直し、自分の長所を生かして行動しようとする態度を養う。															
カテゴリー設定の理由	第3学年では、花の生命の美しさや尊さを実感してきた。そんな子供たちだからこそ、飼育動物に対する生命の重みと育てることへの責任を強く感じることができると考える。第4学年では、飼育活動を通して、「自分の願い」から「自他の願い」というように視野を広げることで見えてきた問題の解決を目指して、今まで以上に飼育動物と関わったり、その動物を支える人と出会い、対話をしたりする中で、動物の幸せを考え、自分はどうすべきかを探究していく。																	
学びの基盤となる道徳的諸価値	希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊さ・自然愛護																	
学びを構成する要素	飼育 生命 達成感 幸せ 笑顔 病気 死 誕生 性格 個性 食物 体験 動物園 かわいい ペット ふれあい 環境 関わり方 安全 仲間																	
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
単元名(時数)	動物の幸せを考えた飼育を目指して(35時間) ～動物たちに自分ができること～					動物たちの魅力を伝えよう(40時間) ～動物と人のつながりについて考える～					動物の命をつなぐ(30時間) ～動物たちの未来を考える～							
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○飼育活動を経験して感じたことや、気になっていることを交流する。 ○動物の様子を観察したり、触れ合ったりすることを通して、動物の性格や好きな食べ物・遊びなどを知る。 ○インターネットや図鑑を使って、動物の特徴や食べ物、病気などを調べる。 ○動物への関わり方や環境など、動物が幸せにくらすためによりよい方法を考える。 ○専門家の方から話を聞いて、現在の環境や関わり方について見つめ直し、計画したことが動物にとって本当に幸せなのか再検討する。 ○動物への接し方や環境づくりなど、動物が幸せにくらすためによりよい方法を実践する。 					添読詞 つし育 てく活 世観動 話察を をし継 した続 たりし り動動 す物物 るのの 気様 持子 ちをに さら りに					<ul style="list-style-type: none"> ○動物たちとの関わりの中で、さらに愛着をもったり魅力を感じたりする。 ○動物たちの幸せや動物たちの立場に立つことで、自分たちにできることを考え実行する。 ○動物と携わる方々(獣医師、岐阜大学教育学部理科教育講座の教授や学生など)との出会いを通して、人と動物との関わりを様々な視点で見つめていく。 ○動物と携わる方々との出会いを通して、命の大切さについて考え、動物と人のつながりについて見直していく。 ○飼育している動物が与えてくれる力を校内の人たちに発信していくプロジェクト活動を行う。 					<ul style="list-style-type: none"> ○飼育の引継ぎ会の計画を立てる。 ○引継ぎ会の実施と見届け活動を行う。 ○動物たちとの別れに向けて、動物たちのためにしてあげたいことを考え、実行する。 ○今年度の学びを振り返り、キャリアパスポートに記入する。 ○飼育を通してどんな自分になったのかを振り返る。 		
想定される ●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ■飼育活動を時間までに終わらせることができない。 ■教えてもらった方法でやってみるが、うまくいかない。 ■調べた方法でやってみるが、飼育が上手くできていないのか分からない。 ●自分たちが動物の様子を見て実践しようとしていることは、本当に動物にとって幸せなのか葛藤する。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやりなど】										<ul style="list-style-type: none"> ■飼育する動物について情報を収集し、共有することを通して、ただ動物の魅力を伝えるだけでは、全校児童生徒と動物の距離は埋められないと実感する。 ●自分の思いと仲間の思いの違いから、自分の思いを優先したいけれど、仲間の思いも受け入れなければならないことに葛藤する。 ●動物と仲良くなってもらうには、体験活動を行いたい、動物にストレスがかかってしまうかもしれない。どちらを優先すればいいのか葛藤する。 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・相互理解、寛容など】					<ul style="list-style-type: none"> ■飼育する動物について、様々な価値観をもつ全校児童生徒に対して、自分たちの思いや考えを伝えることができず、つまづく。(全校発信プロジェクト) ●3年生に楽しく達成感のある活動をメインに伝えていくべきか、苦しいことや大変なことも時間をかけて伝えていくべきか葛藤する。(引き継ぎプロジェクト) 【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・よりよい学校生活、集団生活の充実など】		
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師 ・加納小学校の児童や先生 ・ペットショップの職員 ・岐阜大学教育学部理科教育講座(生物学)の教授や学生 										<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師 ・保健所の職員 ・動物園の飼育員 ・岐阜大学教育学部理科教育講座(生物学)の教授や学生 ・自然保護官 ・ペットショップの職員					・ここまでに出会った方々		
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：メモ(話す・聞く) お礼の手紙(書くこと) ・社会：すみよしくらしをつくる(水・ゴミ) ・算数：折れ線グラフと表 ・理科：季節と生物(春・夏) ・特別活動(飼育活動) 										<ul style="list-style-type: none"> ・国語：パンフレットを読む(読むこと) わかったことをまとめる(書くこと) ・算数：がい数 ・理科：季節と生物(秋)(冬) わたしたちの体と運動 ・図工：ひみつのすみか(立体) 					<ul style="list-style-type: none"> ・国語：新聞を書く(書くこと) ・理科：季節と生物(春のおとずれ) ・図工：カードで伝える気持ち(工作) 忘れられない気持ち(絵画)		

4年1組 単元シート		本単元の目標		
単元名 動物たちの魅力を伝えよう ～動物と人のつながり について考える～ (40)		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
		①飼育動物や全校の仲間を幸せにしたいという願いを基に、問題を発見できるようにする。 ②飼育動物や仲間が幸せに生きるために自分にできることを考え、動物たちの魅力を伝えるプロジェクトを最後までやり切ることができるようにする。	①飼育動物や仲間の幸せのために、他者の思いや考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを根拠を基に伝えたりすることができるようにする。 ②互いに納得できる考えや最適解を生み出すことができるようにする。	①飼育動物や仲間の幸せのために、自分の長所を生かして動物の魅力を伝えようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○飼育動物との関わりの中で、さらに愛着をもったり魅力を感じたりする。(問題①) ○動物の幸せを考えたり動物の立場に立ったりすることで、自分たちにできることを考え実行する。(問題①) ○自分たちが感じる動物の魅力について交流する。(関係①) <p>(8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○岐阜大学へ行き、須山先生や大学生がどのように動物と関わっているか見学したり対話したりする。(関係①) ○動物と携わる人との出会いを通して、命の大切さについて考え、人と動物との関わりを見つめ直す。(問題②) ○動物と人が幸せに関わるには、何が大切なのか話し合う。(関係②) <p>(14)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○動物の魅力を全校の仲間に伝えるプロジェクトを計画する。(問題②) ○計画したプロジェクトが、動物や全校の仲間にとって本当に幸せなのか再検討する。(関係①) ○動物と人が幸せに関わることができるプロジェクトを実践する。(貢献①) <p>(12)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○動物や全校の仲間を幸せにするために自分たちが実践したことを振り返り、成果と課題を明らかにする。(貢献①) ○3年生への引継ぎ会に向けて、引継ぎ事項や環境についてやり切ることを整理し、学年間で交流する。(関係②) <p>(6)</p>
加除修正欄	<ul style="list-style-type: none"> ・動物と全校の仲間をつなぐ活動を行う前に、飼育動物のことを知ってもらう必要があると考え、ポスターを見てもらう対象やポスターを貼る場所を意識して、ポスター作りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜大学へ行く前に、見学の視点や今後のふれ合い体験に向けて学び取りたいことについて、ポスター作りチームごとに話し合う。 		
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ったおもちゃで、ライトが遊んでくれて嬉しい。 ・お腹がすいているときの合図が分かってきた。(ドアの前で待っている。) ・動物たちを小屋の外に出すと、喜んで遊んでくれるので、自分も嬉しくなる。 ・飼育小屋へ行ったり声を掛けたりすると、動物たちが近づいてくれるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物にストレスがかからないように、動物のことを第一に考えて関わっている。 ・いつも動物の自由にさせているわけではなく、だめなことはだめとしっかり教えたり、危険なときは守ったりしている。 ・ある程度の信頼関係ができていないと、動物は安心できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属小中学校の仲間の一員として、名前や個性などを知ってほしい。 ・動物を抱っこしたい子がいたら、触れ合える体験コーナーを作りたい。 ・抱っこされると、動物にとってストレスになってしまうのではないかと心配。 ・全校のみんなに、動物と何がしたいかアンケートをとり、動物にとって幸せかどうか考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物のことを知ってもらうことができたので、全校のみんなも動物たちを大切にしてくれると嬉しい。 ・みんなが動物を見に来てくれるのは嬉しいけれど、動物のストレスにならないように、見るときの注意などを呼びかけていきたい。 ・プロジェクトを行ったことで、動物や全校の仲間が幸せな気持ちになってくれると嬉しい。
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に見てもらえるように、ポスターが貼ってある場所を放送で呼びかけたりお知らせに行ったりしよう。 ・ポスターを貼った場所にパンフレットやクイズの紙を置いて、たくさんの仲間に動物のことを知ってもらえる工夫をしよう。 			
● ■ エラー ■ ジレンマ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 飼育する動物について情報を収集し、共有することを通して、ただ動物の魅力を伝えるだけでは、全校の仲間と動物の距離は埋められないと実感する。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の思いと仲間の思いの違いから、自分の思いを優先したいけれど、仲間の思いも受け入れなければならないことに葛藤する。 ● 動物と仲良くなってもらえるには、体験活動を行いたいけど、動物にストレスがかかってしまうかもしれない。どちらを優先すればいいのか葛藤する。 	

4年1組 本時案 (4年1組教室)

目標

動物と全校の仲間をつなぐプロジェクトについて話し合うことを通して、動物や全校の仲間を幸せにしたいという願いを基に、仲間の考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを根拠を基に伝えたりすることができる。(関係構築力)

本時 (25/40)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け
<p>1 動物と全校の仲間をつなぐプロジェクトについて確認する。</p> <p>○前時までに、どんなプロジェクトの計画を立てましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育動物について知ってもらうために、動物の名前や個性などを伝えたい。 ・たくさんの人が動物を見られるように、広い場所を用意したい。 ・動物が食べる仕草がかわいいので、餌やり体験コーナーを作りたい。食べ物を食べさせる体験をしてもらって、動物のかわいさを感じてもらいたい。 ・ふれあい体験コーナーを作りたい。実際に動物を触ったり抱っこしたりする体験を通して、動物のかわいさを知ってもらいたい。 <p>2 計画しているプロジェクトが、動物や全校の仲間にとって幸せなのか話し合う。</p> <p>○計画したプロジェクトについて、みんなで話し合いたいことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人が集まって来たら、動物にストレスがかかるのではないか。 ・餌をあげたい人がたくさんいたら、動物が食べ物を食べすぎて調子が悪くならないか心配。 ・慣れていない人に抱っこされたら、動物は不安になるのではないか。暴れて下に落ちてしまったら、動物が怪我をするかもしれない。 ・人に慣れていない動物もいるので、もし動物が暴れたりすると、全校の仲間がびっくりするのではないか。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>動物や全校のなかまが幸せになるように、プロジェクトを計画しよう。</p> </div> <p>○自分たちが行おうとしているプロジェクトが、動物や全校の仲間にとって幸せなのかを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん人が集まってしまったら、動物と触れ合えない人がいるかもしれない。事前にアンケートをとって、どれくらいの人が見に来たいのかを調べて、人が集中しそうだったら、曜日や日にちで見に来る人を分ければいい。 ・慣れていない人が抱っこしたときに、動物が怪我をするのはとても心配。だから、自分たちが抱っこして、触りたい人に触らせる体験にしたらいいのではないか。大学の須山先生も、動物たちや私たちの様子をよく見て、ふれあい体験をさせてくれていたよ。 ・餌やり体験は、順番やあげる量を決めて、動物が食べ物を食べすぎないように調整してあげるといい。あと、食べてはいけないものを動物が食べてしまわないように注意しないといけないので、しっかり4年生で呼びかけたい。 ・騒がしいのは動物にとってストレスだと今年の4年生が言っていたし、本にも書いてあったよ。だから、できるだけ小さい声で話すようお願いするなど、動物が苦手なことについては、事前に伝えておきたい。 <p>3 本時の学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんが、動物のことも全校の仲間のことも考えた意見を言っていたので、みんなの幸せを考えていていいと思いました。 ・今計画中のプロジェクトを改善して、動物や全校のみんなが幸せになるふれあい会を成功させたいです。 	<p>○動物と全校の仲間をつなぐために、どんなプロジェクトを計画したのか全体で共有し、不安要素はないか問いかけることで、本時の問いにつなげる。</p> <p>○全体で「願い」を確認し、現在の計画が「動物」と「全校の仲間」の幸せにつながっているのかに着目して話し合いができるようにする。</p> <p>○自分たちが行おうとしていることが、動物や全校の仲間を幸せにすることにつながっているのかを自分ごととして捉え、自分の考えを根拠を基に仲間に伝えることができるように、全体交流の前に小集団の仲間(ポスタープロジェクトチーム)との交流を位置付ける。</p> <p>○願いに立ち返って発言することができるように「その活動が本当に動物や全校の仲間を幸せにすることにつながるのか。」と問う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>動物や全校の仲間を幸せにしたいという願いを基に、仲間の考えを肯定的に聞いたり、自分の考えを根拠を基に伝えたりしている。(関係構築力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の様子内容やワークシートの記述から見届ける。 </div>

4年3組

年間指導計画

「学びの 카테고리」：動物（全105時間）

第4学年の目標	(1) 問題解決力に関わって 動物や人との関わりを通して出会った問いを基に、自分や仲間、動物たちが幸せに生きるために考えた自分にできることを、やり切ることができるようにする。															
	(2) 関係構築力に関わって 動物との関わりや動物に携わる人との交流を通して、仲間の考えを肯定的に聞いたり根拠を基に自分の考えを伝えたりしながら、ジレンマやエラーに対して互いに納得できる考えや最適解を生み出し、活動することができるようにする。															
	(3) 貢献する人間性に関わって 飼育動物や様々な人との交流を通して、命の尊さやこれからの自分の生き方を見つめ直し、自分の長所を生かして行動しようとする態度を養う。															
カテゴリー設定の理由	第3学年では、花の生命の美しさや尊さを実感してきた。そんな子供たちだからこそ、飼育動物に対する生命の重みと育てることへの責任を強く感じることができると考える。第4学年では、飼育活動を通して、「自分の願い」から「自他の願い」というように視野を広げることで見えてきた問題の解決を目指して、今まで以上に飼育動物と関わったり、その動物を支える人と出会い、対話をしたりする中で、動物の幸せを考え、自分はどうすべきかを探究していく。															
学びの基盤となる道徳的諸価値	希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやり・相互理解、寛容・勤労、公共の精神・よりよい学校生活、集団生活の充実・生命の尊さ・自然愛護															
学びを構成する要素	飼育 生命 達成感 幸せ 笑顔 病気 死 誕生 性格 個性 食物 体験 動物園 かわいい ペット ふれあい 環境 関わり方 安全 仲間															
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
単元名(時数)	全ての仲間が幸せになる飼育を目指して① (35時間) ～動物たちに自分ができること～					全ての仲間が幸せになる飼育を目指して② (40時間) ～動物と自分、全校の仲間との関わりから、人と動物の共生を考える～				私はこう生きる(30時間) ～自分の命・生き方と向き合う～						
主な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度の4年生から引きついで飼育を自分たちだけでできるようにするために、仲間と関わり合いながら活動する。 ○学級の仲間とどんな飼育活動を目指すか、願いを確かにする。 ○自分が担当する飼育動物に対して、継続的に関わる。 ○生命の誕生に触れる。 ○飼育活動を通して感じたことや、気になったことを交流する。 ○番さ対策を考える。 ○夏休みの飼育活動に向けて、各学級で大切にしてきたことや飼育活動に対する思いを交流し合い、これから大切にしたいことや方法など、学年で共通理解を図る。 					<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">添詳飼つし育てく活世観動話察をし継続したりしり動物する物の気様持子ちをにさ寄らりに</p>				<ul style="list-style-type: none"> ○動物との関わりの中で、さらに愛着をもったり魅力を感じたりする。 ○動物と携わる人たち（獣医師、岐阜農林高等学校の生徒など）との出会いを通して、人と動物との関わりを様々な視点で見つめていく。 ○全校の児童生徒と飼育動物が関わることでできる場を設定し、動物の魅力を伝える。 ○動物と携わる人たちとの出会いを通して、命の大切さについて考え、飼育動物のために自分たちには何ができるかを考え、実行する。 				<ul style="list-style-type: none"> ○飼育の引継ぎ会の計画を立てる。 ○引継ぎ会の実施と見届け活動を行う。 ○動物たちとの別れに向けて、動物たちのためにしたいことを考え、実行する。 ○動物と携わる人との出会いを通して、命の大切さについて考え、これから自分はどうに行動していくのかを明らかにしていく。 ○飼育を通してどんな自分になれたのかを振り返る。 ○「命について考えたこと」や「これからの自分の生き方について考えたこと」を保護者に伝える。 		
想定される ●ジレンマ ■エラー 【道徳的諸価値】	<ul style="list-style-type: none"> ■飼育活動を時間までに終わらせることができない。 ■調べた方法でやってみるが、上手く飼育できているのかわからない。 ■自分は何でもやっているのに○○さんはやりたいことしかやらない。 ●動物によって得意・不得意、好き・嫌いがあるから、役割分担した方がよいのではないかと。 ●苦手、嫌いはあるけれど、飼育活動をやりきらないといけな。 ●飼育小屋で生活することが、動物たちにとって本当に幸せなのか分からない。 ●自分たちが動物の様子を見て実践しようとしていることが、動物にとって本当に幸せなのか分からない。 <p>【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやりなど】</p>									<ul style="list-style-type: none"> ■いろいろな遊び道具の提案があって、意見がまとまらない。 ■全校の仲間自分たちの思いやりやりたいことが上手く伝わらない。 ●自分の思いと仲間の思いの違いから、自分の思いを優先したいけれど、仲間の思いも受け入れなければならないことに葛藤する。 ●全校の児童生徒と飼育動物が関わる場を設定することは、本当に動物にとって幸せなのか分からない。 <p>【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・親切、思いやりなど】</p>				<ul style="list-style-type: none"> ■命を大切に生活をしていくために、これから自分がどのように行動をしていくべきかわからない。 ●3年生に楽しく達成感のある活動をメインに伝えていくべきか、苦しいことや大変なことも時間をかけて伝えていくべきか葛藤する。 <p>【生命の尊さ・自然愛護・希望と勇気、努力と強い意志・よりよい学校生活、集団生活の充実など】</p>		
人材活用施設	<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師 ・岐阜農林高等学校 									<ul style="list-style-type: none"> ・獣医師 ・保健所の職員 ・動物園の飼育員 ・岐阜農林高等学校の生徒 ・自然保護官 ・ペットショップの職員 				<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでに出会った方々 ・保護者 		
教科等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・国語：メモ（話す・聞く） お礼の手紙（書くこと） ・社会：すみよいくらしをつくる（水・ゴミ） ・算数：折れ線グラフと表 ・理科：季節と生物（春・夏） ・特別活動（飼育活動） 					<ul style="list-style-type: none"> ・国語：パンフレットを読む（読むこと） わかったことをまとめる（書くこと） ・算数：がい数 ・理科：季節と生物（秋）（冬） わたしたちの体と運動 ・図工：ひみつのみずみか（立体） 				<ul style="list-style-type: none"> ・国語：新聞を書く（書くこと） ・理科：季節と生物（春のおとすれ） ・図工：カードで伝える気持ち（工作） <p>忘れられない気持ち（絵画）</p>						

4年3組 単元シート		本単元の目標		
		問題解決力	関係構築力	貢献する人間性
単元名 全ての仲間が幸せになる飼育を目指して ～動物と自分、全校の仲間の関わりから、人と動物の共生を考える～ (40)		①飼育動物だけでなく、全校の仲間を幸せにしたいという願いを基に問題を発見できるようにする。 ②問題解決に向けて自分で何をすべきかを考え、行動することができるようにする。	①動物に携わる人と交流する際や仲間と活動を話し合う際に、根拠を基に自分の考えを伝えたり、他者の考えを肯定的に聞いたりできるようにする。 ②互いに納得できる考えを生み出すことができるようにする。	①動物との関わりから命の尊さを実感し、自分にできることを考え、命を大切に生活しようとする態度を養う。
活動の計画	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みの飼育活動や個人プロジェクトを振り返り、夏休み明けの活動を計画する。(問題①) ○専門家と交流し、専門的な知識を得たり、動物の魅力を実感したりする。(関係①) ○飼育動物の魅力を発信して、全校の仲間を幸せにしたいと願いをもつ。(貢献①) (8)	<ul style="list-style-type: none"> ○飼育動物と関わることで、全校の仲間が幸せになるような第一プロジェクトを企画する。(関係②) ○ヒヨコを育てるために、必要なことを調べる。(問題②) ○ヒヨコを育てる中で、命の尊さを実感する。(貢献①) (16)	<ul style="list-style-type: none"> ○第1プロジェクトを振り返り、成果と課題を明らかにする。(問題①) ○全校の児童生徒に第1プロジェクトの感想を聞き、プロジェクトを修正する。(関係②) ○ヒヨコと触れ合うことのできる第2プロジェクトを企画する。(貢献①) (12)	<ul style="list-style-type: none"> ○第2プロジェクトを振り返り、成果と課題を明らかにする。(問題①) ○飼育動物と関わった1年間の学びを振り返り、自分の生き方を考える。(貢献①) (4)
加除修正欄	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の魅力を全校の仲間にも知ってもらいたいと願い、触れ合い活動を計画した。 ・触れ合い活動に向けて、専門的な知識を得るために専門家と交流した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1,2年4組と3,4年4組の児童と動物が触れ合うことができるプロジェクトを企画した。 ・岐阜大学の須山先生からヒヨコを3羽譲り受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヨコが大きくなったため、ヒヨコの場所を教室から飼育小屋に移した。 ・ヒヨコとの触れ合い活動をするために、困っていることを専門家に質問した。 	
想定される姿	<ul style="list-style-type: none"> ・全校の仲間が飼育動物と触れ合うことができるような場を設定しようとする。 ・新たに生まれた問いを解決するために、専門家にインタビューをしたいと考える。 ・ヒヨコを間近で見て、自分たちも育ててみたいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みに全校の仲間が動物と触れ合うことができるような場を設定しようとする。 ・どこで、どのようにヒヨコを育てていくかを話し合う。 ・継続的にヒヨコと関わり、成長を見守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物との関わりを通して、もっと多くの仲間にも幸せになってほしいと第2プロジェクトを企画する。 ・各学級にアンケートを配付し、全校の仲間の思いを知ろうとする。 ・動物にストレスがかからないようなプロジェクトを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の幸せを守りつつ、全校の仲間を幸せにすることができた達成感を感じる。 ・動物たちの命を大切にしてきた経験から、自分たちの命について捉え直すようとする。
実際の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・エサやり体験と触れ合い体験をして全校の仲間にも動物の魅力を知ってほしいな。 ・触れ合い体験でニワトリは、小屋から出した方がよいか聞いてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物を怖いと感じる仲間もいたから何か工夫できることはないかな。 ・平日だけでなく、土日も当番を決めてヒヨコと関わることで、学級全員でヒヨコの成長を見届けよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生が、うさぎやニワトリだけでなく、ヒヨコも見たいと言っていたよ。 ・同じ人ばかり、エサをあげていて多くの人に魅力を伝えることができなかつたよ。 	
●エラー	<ul style="list-style-type: none"> ●動物たちの魅力を発信し、全校の児童生徒を幸せにしたいが、動物たちはストレスに感じるのではないかと葛藤する。 ●ヒヨコを育てたいが、自分たちが育てることが本当に動物の幸せになるのか葛藤する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■多くの人が動物を見に来て、一人一人が動物と十分に触れ合う時間を確保できない。 ■ヒヨコの育て方が分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ■全校の仲間にも自分たちの思いが上手く伝わらない。 ●ヒヨコを見たい仲間がいるが、多くの人が見ると、ストレスになるのではないかと葛藤する。 	

4年3組 本時案 (北校舎ピロティ、飼育小屋)

目標

「動物の魅力が伝わるように、どんな工夫をするとよいか」を対話する活動を通して、全校の仲間にも動物の魅力を知ってほしいという願いを基に、伝えたい動物の魅力を整理したり、自ら参加者に魅力を伝えるに行ったりするなどして、動物の魅力が伝わるプロジェクトに修正することができる。(問題解決力)

本時 (28/40)

活動内容 (○教師の発問 ・ 予想される児童生徒の発言)	○教師の手立てと見届け			
<p>1 第一プロジェクトを振り返り、本時学級の仲間とやりたいことを共有する。</p> <p>○今日の触れ合い活動でやりたいことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の触れ合い活動では、キラやゲンキ(ニワトリ)が怖いと言っていた仲間がいたから、誰でも近づけるようにご飯を食べているかわいいところやだっこをされて落ち着いているところを特に見せたいな。 ・ヒヨコばかりに人が集まらないように、積極的にお客さんに声をかけて、いろいろな動物の魅力を知ってもらいたいな。 ・第一プロジェクトでは、動物たちを外へ出すことで精一杯だったけど、今日はお客さんに魅力をどんどん伝えていきたいよ。 	<p>○全体場で、数名を指名し、「どうして、○○をやってみたいの」と問うことで、「いろいろな動物の魅力を知ってもらって、全校の仲間を幸せにしたい」という学級の願いを確認する。</p> <p>○自分たちの周りに参加者がいないチームには、「どうするとこの動物の魅力がお客さんに伝わるかな。」と声をかけ、学級の願いに立ち返ることができるようにする。積極的に参加者に声をかけに行く児童を価値付ける。</p> <p>○活動の際に、「お客さんに動物の魅力は伝わったかな。」と問い、相手の立場になって参加者の気持ちを考えることができるようにする。また、「どうするとお客さんの気持ちが分かるかな。」と問い、よりよいプロジェクトにするためには、参加者の気持ちを確認する必要があることに気付くことができるようにする。</p> <p>○「今日工夫したこと」と「困ったこと」の2つの視点で振り返りを書く。数名を意図的に指名し、次の活動の見通しをもつことができるようにする。</p>			
<p>動物の魅力が伝わるように、どんな工夫をするとよいか。</p>				
<p>2 グループに分かれて活動をする。</p> <p>○グループに分かれて活動をしましょう。</p> <table border="1" data-bbox="170 874 1413 1193"> <tr> <td data-bbox="170 874 577 1193"> <p>【ウサギ】(にっこり池：5チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に走っている姿を見てほしいな。 ・おいしそうにご飯を食べる姿を見てほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウサギが外に出ることを嫌がったら、どうしよう。外に出すことができなくても、魅力を伝えたいな。 </td> <td data-bbox="586 874 994 1193"> <p>【ニワトリ】(ピロティ：2チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリがお散歩する様子を見てほしいな。 ・ご飯を食べているニワトリのかわいさを知ってほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリが興奮しないように、どんな工夫をするとよいか。ニワトリも参加者も安心できる環境をつくりたいな。 </td> <td data-bbox="1003 874 1413 1193"> <p>【ヒヨコ】(ピロティ：3チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手に乗せて、ヒヨコの温かさを感じてほしいな。 ・ふわふわなヒヨコを触ってみてほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人がたくさん集まりそうだな。どうすれば、多くの参加者に魅力を伝えられるかな。 </td> </tr> </table>	<p>【ウサギ】(にっこり池：5チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に走っている姿を見てほしいな。 ・おいしそうにご飯を食べる姿を見てほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウサギが外に出ることを嫌がったら、どうしよう。外に出すことができなくても、魅力を伝えたいな。 	<p>【ニワトリ】(ピロティ：2チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリがお散歩する様子を見てほしいな。 ・ご飯を食べているニワトリのかわいさを知ってほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリが興奮しないように、どんな工夫をするとよいか。ニワトリも参加者も安心できる環境をつくりたいな。 	<p>【ヒヨコ】(ピロティ：3チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手に乗せて、ヒヨコの温かさを感じてほしいな。 ・ふわふわなヒヨコを触ってみてほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人がたくさん集まりそうだな。どうすれば、多くの参加者に魅力を伝えられるかな。 	
<p>【ウサギ】(にっこり池：5チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気に走っている姿を見てほしいな。 ・おいしそうにご飯を食べる姿を見てほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウサギが外に出ることを嫌がったら、どうしよう。外に出すことができなくても、魅力を伝えたいな。 	<p>【ニワトリ】(ピロティ：2チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリがお散歩する様子を見てほしいな。 ・ご飯を食べているニワトリのかわいさを知ってほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニワトリが興奮しないように、どんな工夫をするとよいか。ニワトリも参加者も安心できる環境をつくりたいな。 	<p>【ヒヨコ】(ピロティ：3チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手に乗せて、ヒヨコの温かさを感じてほしいな。 ・ふわふわなヒヨコを触ってみてほしいな。 <p>【想定されるジレンマやエラー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人がたくさん集まりそうだな。どうすれば、多くの参加者に魅力を伝えられるかな。 		
<p>3 本時の学びの振り返りをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は、「ヒヨコのかわいさを全校の仲間を知ってほしい」と思って、実際にヒヨコを手に乗せて、ヒヨコと触れ合ってもらえるように工夫しました。しかし、順番待ちの列が長くなって、待たせてしまう時間が増えてしまい困りました。次の時間は待っている時間も楽しんでもらえるような工夫を考えて、もっと動物の魅力を伝えることができるようにしたいです。 	<p>目標に迫った姿をどのように見届けるか</p> <p>動物の魅力を知ってほしいという願いを基に、自分から参加者に声をかけ触れ合い活動を実施する中で、問題点を見付け、プロジェクトを修正している。</p> <p style="text-align: right;">(問題解決力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子やMetaMoJiの記述から見届ける。 			